新編金瓶梅

巻上

曲亭馬琴作

一陽齋豐國画

へ13
3724
9

門へ13

美圖垣笑顔作
一陽齋豊國画

美圖垣笑顔作
一陽齋豊國画

美圖垣笑顔作
一陽齋豊國画

若夫花鳥風月の如き世の人是を愛ざるなし。是を愛ずるに各差あり。詩歌の為に愛ずる者は風流士と為し飲食管絃の為に愛ずる者は疎人と為し賣買利を射る為に愛ずる者は賈堅と為す中に花に風雨の暴を怕れ鳥に桓山の哀別を慨し風に萬籟の吟を厭ふべく月に浮雲の障を厭ふべし。是を愛ずる者は幽静悟道の達者なり。花鳥の為に知己とのたまへり。然べ果敢る元策子物語と好もの是に似て趣向の巧みなり。勸懲の正を教ぶ者を真の看巧者と也。又巧拙と勸懲とに管わらで只浮るを紛ぶを勾欄下の看官と也。又唯画を見て文を見ず只人に話さるを其崖畧を知らく欲ずれば是白髮の小児も書肆の得意なるべし。抑這新編金瓶梅も彼二書の看官あるん左も右も勝者の強に抗園扇を抗ざらめやと。

天保十三壬寅年春正月吉日新版　　文人馬琴自序

春の魚 第一
名所都鳥
白魚を見る
墨田河
愚山人
再出 千早

春の魚 第二
柳葉針 釘抻原や
送り鯨魚 鶴齋
再出 志貴實一郎
奴隷 萬平

夏の魚 第三

初堅魚

負ぶ

走る

競ひ

狂齋

川北一郎

山路檀作

夏の魚第四

碟よるぶ河岸

涼し竹筴魚の反

宇津七郎

信天翁

阿漕安見二郎

秋の魚　第五

再出　女官　琴柱

腮藁の秋を海の春とする

半閑人

伴當

冬の魚　第六

三出　東戸屋　西啓

膳太し

死あり

つのりぎ

河豚汁

蓑笠

三出　金蓮

潮

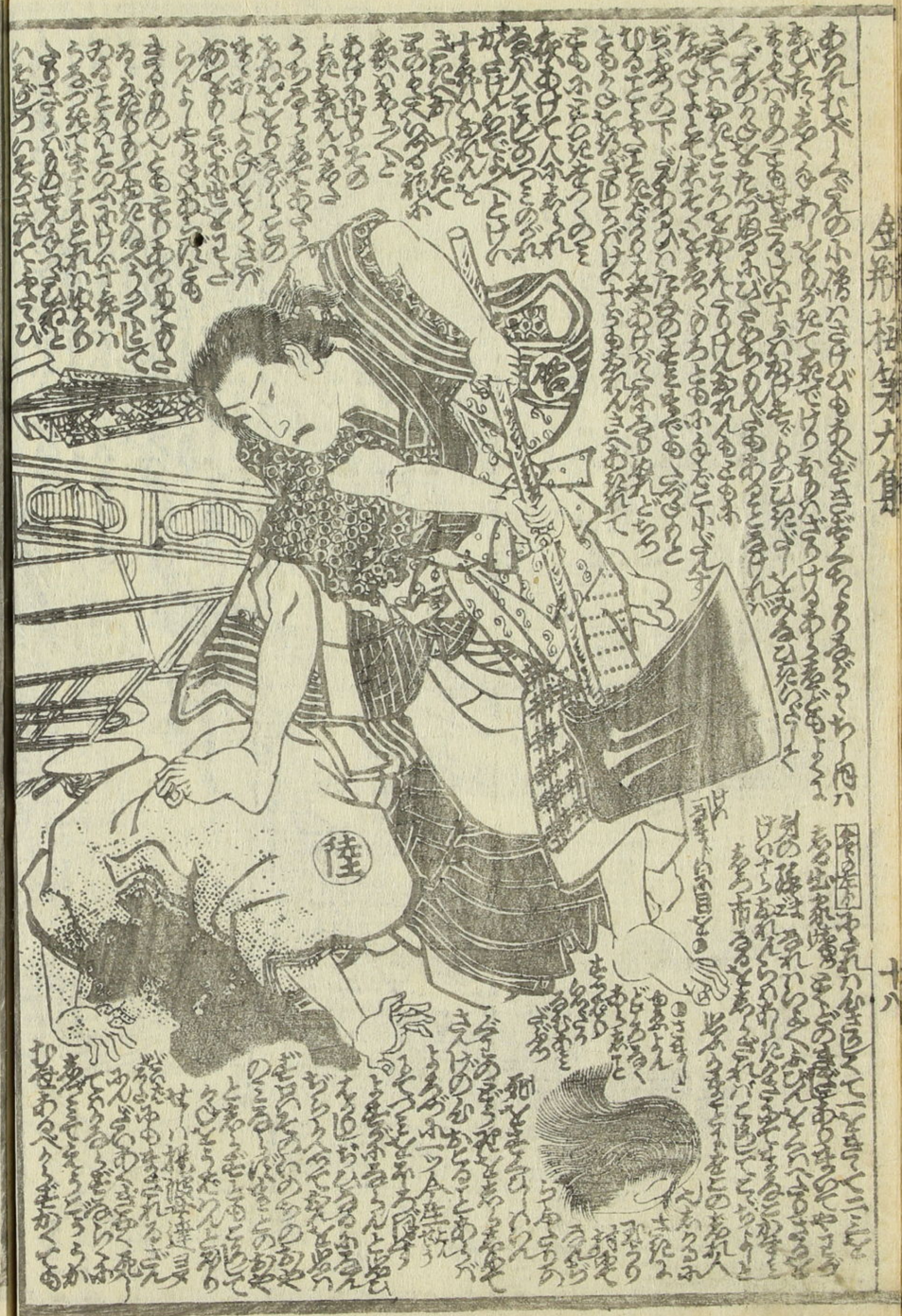
木

十
松
夢
左の上分

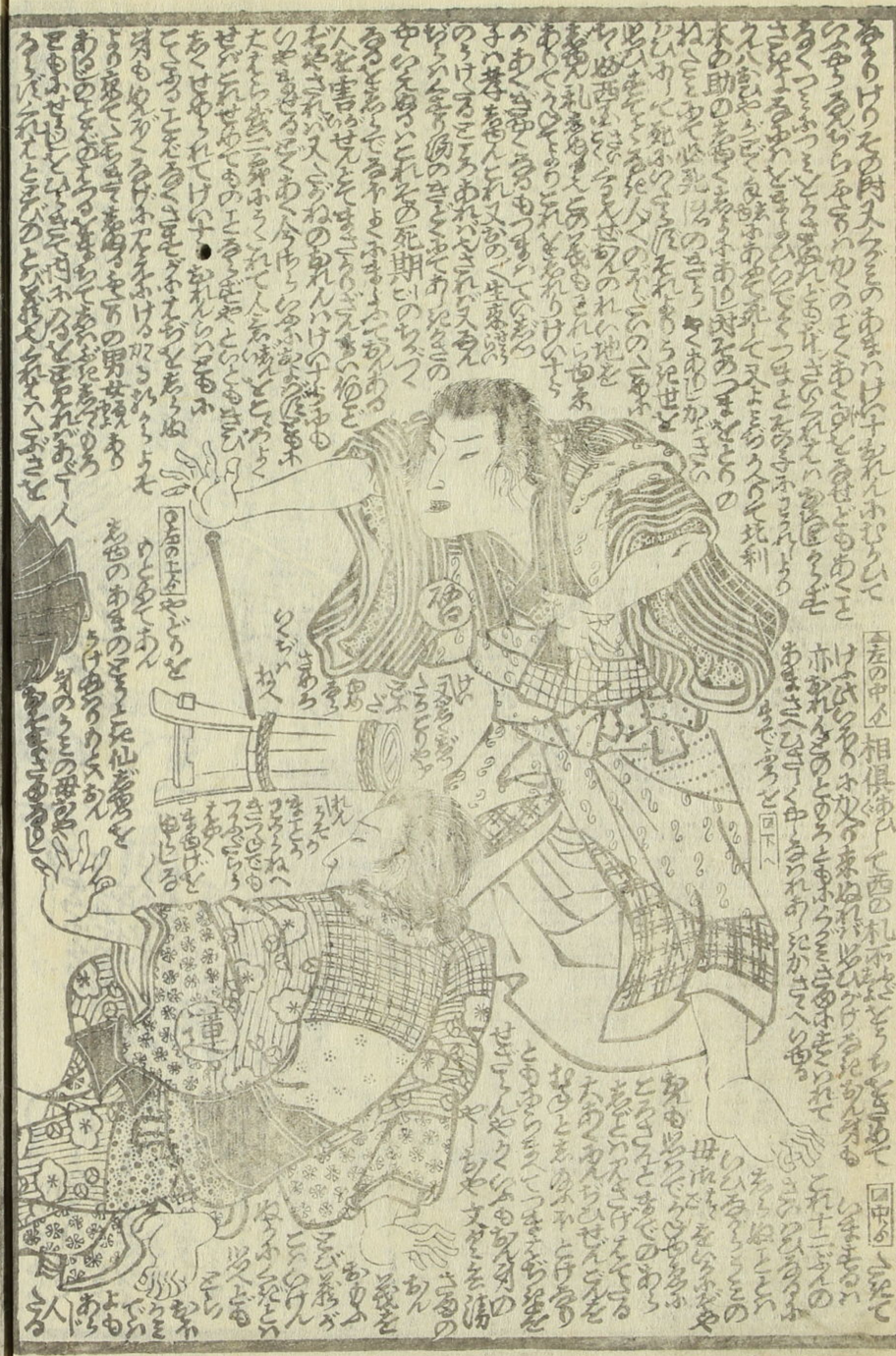
楠
夢
石
陳
紅

松
夢
山
川
千

白
陸


陸

白
蓮



家傳神女湯 [illegible]

精劇玉奇觀 [illegible]

製茶本家 [illegible]

國貞画

馬琴作

清書 谷金川

[illegible]

宮
蓮

陸
吳
白

運
啓

潮

具
鳥

陸
白

寒々

稚

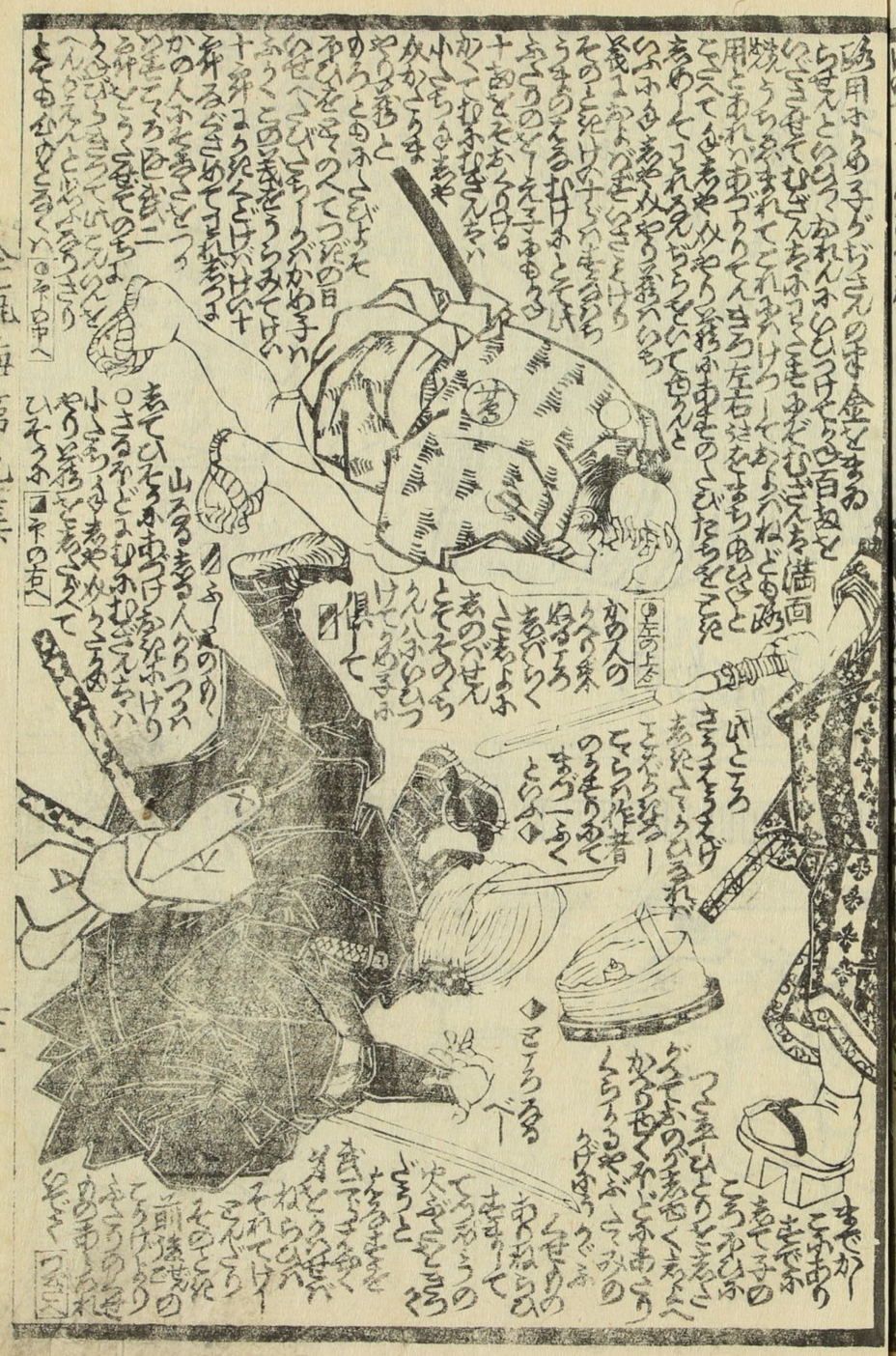
寒
旅

六
力
角

力
寒

鬼柳八角いかるがとの
牛
上へ
角
角
左の中へ

中へ
上へ
左の下へ



松
梅
竹
実
亜
後
金

力
松

角

松
潮

作者曰このとしのこけ才十集ふまりもちろんこれはむだんまりでる人よろしくさろもべー

家傳神女湯 ぬけ人ちのみち 疝気病の妙ぐく一包代百疝
秘の良方りてあり今ちのみち即功あり
よりつぬの者ぬ中ふ系とあり今ちのみち即功あり
精製奇應丸 大包代金三朱中包代二朱小包代五ー
ぬ者ぬ者ぬ者